

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101998		
法人名	社会福祉法人イーストヘルスケアソサエティ		
事業所名	グループホーム スマイル		
所在地	岐阜市芥見野畑1丁目25番地		
自己評価作成日	平成24年11月22日	評価結果市町村受理日	平成25年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kanji=true&JigyosyoCd=2170101998-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南頬町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成24年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の言動だけでなく、声に出せない思いも受け止め本当は、何を希望しているのかを考えてケアをしている。
QOLの低下を防止するだけでなく、今の生活が少しでも長く続くようにケアの向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「スマイル」は、総合病院、老健、特養、デイサービス、ショートステイそしてグループホーム等の施設を有し、地域住民の病気や介護のありとあらゆる要望に応えている。事業所は4階に在り、フロアからの眺望は、格別なもので、四季折々に山々が織りなす情景は雄大なもので、特に秋の紅葉は格別なものである。
施設は、明るい空間が広がり、その余裕の在る空間が、利用者の心を豊かにし、落ち着きの在る環境になっている。施設長は、職員にも高度な福祉サービスの技術の習得を考えて、その1つが、キャリアパス研修である。一人ひとりの暮らしと尊厳を守り、寄り添いながら生活の支援をしており、利用者の生活の質を低下させないよう、日夜研鑽を積み重ねている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念に基づき、利用者一人一人に合ったケアと実施している。また、グループ会議にて常に話し合いをし理念の共有と図っている。	職員は理念を理解し、車椅子で食事は行わず、必ずイスに座ってもらい「利用者様が、穏やかに過ごしていただけるように」と、サービスの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム周辺の清掃活動に努めている。2ヶ月に1度の自治会行事の「いきいきサロン」へ参加、地域の一員として交流に努めている。	開設して10年が過ぎ、地域住民との交流は、できる限り積極的に行っている。自治会の行事にも参加し、施設が行う祭りなどの行事には、お持て成しをするなど、地域住民にとって、毎年待ち望む関係になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の夏祭り等のチラシを、地域配布しながら、施設の運営や理念を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議の開催に努めており意見交換の場と増やしている。取り組みの報告や、アドバイスを受け、サービスの向上に努めている。	運営推進会議については、昨年度の目標に上げ、取り組みをしている。今まで3ヶ月に1回の開催であったのが、年5回開催ができた。さらに隔月開催できるよう、改善の方向で検討を継続している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から、現状報告等を行ったり、問題点に対するアドバイスを受けている。また、市町村からの連絡文に対しても、職員すべてで共有している。	施設の位置は、岐阜市の中心から遠く離れているが、市役所との行き来を欠かしてはいない。また、近年、ITやネットの利用、メールでのやり取りなど、パイプは以前より太くなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が、利用者のQOLも低下させる事も含め、職員で、勉強会を実施し身体拘束ゼロに努めている。	社会福祉法人「イーストヘルスケアソサイティ」で、身体拘束はしないこととしている。職員は研修の中で身体拘束の意味などを理解しており、職員同士、身体拘束をしないことの確認をし合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアをする上で、職員におこる悩みを常に話せる、ふいんきを作っている。勉強会で、原因を探り話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会や施設研修、施設外研修などで、学習したことをグループ会議にて話し合いを行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホーム内の見学、木安や疑問などをはなしていただけるような雰囲気を作っている。契約時など文書を確認していただきながら十分な説明を行い、理解、納得されてから規約していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議を3ヶ月に一回開催しています。ホームからの活動報告や今後の活動予定などを、連絡しています。家族の要望や意見を聞いています。意見は、真摯に受け止め検討し、対応している。	3ヶ月に1回開催する家族会には、9割の家族の参加がある。家族会で悩み相談を行った。意見や提言、苦言などにはそれぞれ回答をしている。職員全員が、家族の意見を尊重している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、GH会議にて、職員から意見を徴している。提案については、代表者や管理者は実現できるように協力しています。	施設長は、職員のレベルアップを目指している。研修が重ねて行われ、様々な会議やミーティング、カンファレンスなどでも、その職員も意見を言うことが出来ている。話し合いが、サービスの向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内の研修以外にも、多くの研修に参加できるような機会が、もうけられています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員に外部の研修情報を提供し、必要な研修については参加を指示しています。また関係機関からの情報収集を図っています。職員に資各習得を奨励し法人での勉強会も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は協議会を通じて同業者と交流を図り、勉強会にも参加し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族、本人に見学してもらい雰囲気を感じて頂く本人の思いや様子を聞き把握、他の利用者さんと馬「川」染んでもらえるよう支援。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の訪問、電話等受け不安が少なくなるよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不安があることを念頭に必要としているサービスが適切であると感じていただけるよう支援。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どんな所へ出掛けたいのか、何が食べたいのか話し合いも時として行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今まで過していた環境など家族にお聞きし本人を中心とした人間関係を築いている。本人の希望を家族に伝え家族らしい援助をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り実現できるように援助しています。家族が望まない場合は説明し理解を求めます。	面会記録があり、家族の面会が非常に多い。その折に家族が外出に誘う場面も多く、なじみの継続に繋がっている。また、調査訪問時にも家族面会があったが、とても丁寧な職員の対応であった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、声を掛けあってレクリエーションをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、家族の相談や支援に努めるように周知し、対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を伺い、本人らしさを、優先した援助を行うようにしている。	常に利用者と相対して会話をしており、利用者が何を望んでおり、何をしたいかなど、思いや意向の把握に時間を掛けて聞きだしている。また、出来ることは職員で協議し、直ぐに叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事業所からの情報収集本人や家族からの希望を伺いこれまでの暮らしを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別対応に努め、本人の心身の状態、本人の過しやすさを、考えながら援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームアセスメント、モニタリング、家族との面談より意見を出し合い本人の状態に合った介護計画の作成を行っている。	ケアプランと介護の記録、そして実践のケアが繋がっており、誰が見ても分かり易いものになっている。24時間シートの活用や職員とケアマネの連携も抜群である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、実践記録、24時間シートをもとに、職員間で細かな情報の共有を行い介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所として、できる限り対応し必要な時は広く情報収集し本人や家族と話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方による踊りや歌などでリフレッシュしていただいている。「いきいきサロン」に参加したり、買い物に行きながら地域での生活を楽しんでいただけるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談の上、受診を援助しています。母体が協力病院の為、連携がとりやすく医師の指示をうけています。状況は、職員全員が共有し、受診後は、家族への連絡を行っている。	母体が総合病院の為、医師との連携が取り易く、階下には医務室があり適切な医療受診が出来る。一人ひとりの健康管理や状態の変化に応じた支援ができ、夜間緊急の対応も安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護職と常時連絡、相談ができる体制にあり、適切な情報も伝達されている。利用者の健康管理も支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療を受けられるように病院関係者との情報交換に努め、早期退院に向けた話し合い、利用者の状況に合わせて行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にホームの方針を伝え継続した医療行為が必要となれば、利用者、家族と相談の上、入院を勧めています。重度化についてはできる限り今の生活を続けられるよう支援し、勉強会も行っています。	契約時には事業所の方針を説明し、母体の総合病院との連携で速やかな対応が出来る。重度化、終末期の看取りについては、本人と家族の意向を把握し職員間で技術、意識の向上に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに協力病院や連絡先を明記し、施設内研修で応急手当や初期対応についての勉強会を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人として年2回利用者参加にて避難訓練を実施しています。実施後は、勉強会にて反省会をし、新たな対策改善を行っています。	法人全体で総合訓練を行っている。事業所が4階にありその西側には、広い避難場所がある。事業所独自に備蓄品も整えている。災害時には避難場所として近隣に開放している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の気持ちを考え言葉かけに充分配慮し、排泄時には、プライバシーを損ねないように対応します。一人々が自由に過される時間も尊重しています。	一人ひとりの暮らしと尊厳を守り、寄り添いながら生活の支援をしており、職員の落ち着いた声かけが印象的であった。日々の利用者の記録簿の保管にもプライバシー保護の考えがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思い、考え、を聞き行動に移しています。行事の中でも声かけ多く本人が選択できるよう援助しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムを大切に起床や就寝時間は尊重されています。日用品乳酸飲料購入など個々の楽しみを利用者に決定して頂けるよう援助しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回施設内で行う理容室に行けるよう援助しています。また、1~2回の買い物日にお誘いし好みの物を選んでおしゃれをして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の栄養士が献立を立て厨房で用意された食材を職員が調理しています。レクリエーションとして毎月昼食作り、おやつ作り外食を計画し楽しんで頂いています。	利用者同志の配慮から食卓の配置の工夫がある。又新機能のレンジで、おやつや、ケーキを作り和気あいあいの雰囲気である。職員も検食を兼ねて一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	リビングにはいつでもお茶が飲めるようポットが用意されています。夜間はペットボトルにお茶を入れて部屋において水分補給又、トイレ誘導後リビングにて水分補給等していただいています。食事摂取量の把握、月1回の体重測定行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアは可能な限り自分で行って頂き出来ない所を援助しています。夜間義歯洗浄、その後ポリデント液につけ置き援助やガーゼ綿花ブラシ等での口腔ケアも行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握した上で、自立した人には声掛けし、誘導する人には声掛け、誘導を行っています。	チェック表、伝達ノート等で、一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導を行っている。ねたきりの方を作らない為にも、排泄の自立支援の努力がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量が書かれているシートで確認し、昼夜を問わず、摂取量に気をつけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴される順番や、湯温も各々の好みにしています。又入浴日に入られないときは、翌日に声掛けし入浴して頂く様にしている。	入浴日は週3回の午後に行なっている。一人ひとりの体調に合せ、入浴日に入浴出来ない利用者には、足浴や清拭を行い柔軟な入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声掛けし体調が悪いときは休んで頂いたりして、利用者様の様子や顔色を常に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食前後、飲まれる薬でも「何の薬？」と聞かれる事もあり、答えられるように努め、症状の変化にも気を付けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作品を作る作業の中で、一人一人の出来そうな箇所での参加の呼びかけをそしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外の空気を吸い、季節の移り変わりを感じて頂き、生活の中でのめりはりが出来ると良いと思います。	四季折々には、1時間以内でドライブ出来る場所に出かけている。特に関、各務原の道の駅に立ち寄り、食事をするのを楽しんでいる。散歩日和には近くの喫茶店に出かけている。又家族と共に独自に出かけられる支援もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より金銭を預り、預かり書を出している。利用者が買い物時にお金を渡し金銭管理は職員が行い、家族に報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ電話の援助を行っています。暑中見舞や年賀状を書いて頂きます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの南側前面がガラスになっており明るく開放的で戸外の風景からも季節感が感じられる。換気を心がけ、フロアや居室の温度にも注意しています。	南に面しているリビングは全面が硝子張りである。4階にある事業所からは、見晴しが良く、四季折々の山がみられ、季節感が味わえる。共同空間は広々とし、外来者との対話コーナーも落ち着いた場所にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、テレビを置き、離れた空間には、丸テーブル、本棚などを置いて移動には十分な広さを確保し、自由に利用して頂ける様に工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着けるように、なじみの物を置いたり飾ったりされる、作り付けのタンス、洗面台があり、口腔ケアは自室で行っている。冷蔵庫やテレビ等持ちこまれている。	個々の部屋には窓があり、明るい日ざしが入り、落ちついた部屋で作り付けの筆筒や洗面台のある居室である。又冷蔵庫やテレビ等を持ち込み、個性的な部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口は分かりやす色分けされています。居室内にポータブルトイレを置きできるだけ自立した生活が出来るようにしています。		